

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0370900573		
法人名	社会福祉法人 柏寿会		
事業所名	福光園グループホーム フクちゃんハウス		
所在地	岩手県一関市真柴字岩ノ沢91番地19		
自己評価作成日	平成21年9月23日	評価結果市町村受理日	平成21年12月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	「介護サービス情報の公表」の公表後にリンクします。
----------	---------------------------

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1
訪問調査日	平成21年10月19日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは各種委員会(研修委員会、保健委員会等)を立ち上げており、その委員会の中で、個々のモチベーションを上げ、気づく事により、入居者の現状を把握する事が求められている。こうした中で、年1回の発表会を開催し、行政、家族の参加も得られ、相互の理解、取り組みに対しての結果、現状を共有する事で、更なるステップへと繋げている。又、行事にも積極的に家族参加が得られ、共に信頼関係が強く、家族としてケアの一員になっている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

フクちゃんハウスでは家族との連携や交流に積極的に取組み、委員会活動報告会及びケアプラン作成の話し合いへの家族参加、家族アンケートの実施、年2回開催の家族との飲み会(懇親会)などを実施している。その結果、ケアプラン作成の話し合いや懇親会にはほぼ全ての家族の参加が得られており、このような取組みが利用者や家族が信頼できるゆったりとした自然な雰囲気ホーム運営につながっていると感じた。

職員の資質向上のためには、職員が自分で気づき自ら進んで行動できるようになることを目指し、研修委員会・保健委員会等の委員会活動を積極的に行い、活動成果については行政職員や家族も招いての報告会を開催している。また、同法人経営のグループホームとの合同研修会も開催され、より質の高い介護の提供を目指した取組みが実践されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念「和」という4つの方針を掲げ、日々仕事する際、個々に黙読している。ホームとしてのあり方、入居者の尊厳等をきちんと理解・共有しケアにあたっている。	ホームの理念は職員全員で考え、地域密着の視点の追加など必要に応じた見直しも行われている。理念は新任職員配置時に研修で話すほか、毎月の会議でも取り上げ、年1回は理念を印刷して職員に配布し、共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	慰問や、地域のボランティアの方々と交流を深めている。地域の運動会にも参加している。又、ホームの畑も、地域の方(区長さん)の協力もあり、職員も一丸となって取り組んでいる。	踊りや歌のボランティア、幼稚園児の訪問のほか、毎月継続している料理ボランティアの訪問では一緒に料理作りも行っている。夏祭り見物や地区の運動会に出向き、運動会では利用者も一緒に参加するなど地域との繋がりを深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	個々の潜在能力を活かして、日々の生活の中で、雑巾を縫って頂き、毎年雑巾寄贈を小学校へ行き行っている。新聞等の記事に取り上げて頂き、GHとしてのあるべき姿を地域住民へ発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、年6回の開催を実施している。行政・地域住民・区長・ボランティア会長・法人評議員・家族・入居者の方々の参加を得られている。事業報告や、今後のあり方等について報告や意見を頂いている。	運営推進会議では活動状況報告や評価結果の報告等が行われている。前年度評価の改善点から、会議委員である区長より地域活動への参加を促す提言があり、地区の運動会に参加し利用者にも好評であった。	提言を生かした取り組みで利用者から好評を得られた事は会議の効果の現われであり、今後は更に活発に意見交換が行われるようになることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加を頂いたり、ホーム内研修で講師をして頂いたりし情報を共有している。又、GHブロック定例会等に参加して頂き、サービスの向上に活かしている。	昨年度の研修会では市の職員に講師を依頼している。また、年1回開催する各委員会の活動報告会にも市の担当者が参加し、ホームの活動状況を伝えられるような取り組みが行われている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事故対策、身体拘束廃止委員会(合同委員会)を立ち上げ、毎月のように確認している。チェック表に基づき把握し予防に努めている。玄関の施錠は夜間帯のみ実施しているが、日中は施錠せず、本人の思う気持ちを理解し対応している。	事故やヒヤリ・ハットについて同法人のグループホームと合同検討会を開催し、身体拘束対策と事故防止に取り組んでいる。日常的には、利用者の動きを把握できる位置で全体に配慮するように心がけ、外出したい時は一緒に出かけるような対応が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等に参加し、その内容等について職員同士共有し、理解している。管理者から資料等提示し、職員会議等にて周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度活用は行っていないが、今後制度については、行政等の担当者を依頼し、研修を通じて制度管理を行っていききたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際、関係書類にて説明させてもらっている。又、その際、例文を用いわかりやすく、家族様が納得するまで、説明し同意を得ている。利用料等についての変動も説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置。 運営推進会議で、家族から要望や意見を聞き入れ対応している。 定期的な家族アンケートの実施(年2回)後、職員間での共有を得ている。	ホーム運営に対する内容の家族アンケートが、年2回実施されている。また、家族と職員との交流会(飲み会)も年2回開催され、家族との良好な関係作りに努め、職員に対して日常的に意見を言いやすくなるように取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等にて都度意見を出し合い、話し合いを行っている。法人全体会議が年2回あり、経営的、各事業所等の報告を確認している。現在の当事業所の実績報告等も確認し、今後活かす取り組みを行っている。	定例職員会議が毎月1回開催され、職員が意見を出せるようになってきている。最近では10月から夜勤職員体制が変わる事に対する不安が職員から出され、AEDの取り扱い研修や緊急連絡体制の再検討が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、年2回自己評価、上司評価により個別面談を行い、その後の業務に反映させている。働く意欲を向上させる為にも、管理者が中心となり、助言・指導を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部・内部研修を通じて、その課題となる知識を習得し共有を図っている。積極的に研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岩手県GH協会、ブロック定例会へ参加し、情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。他施設との交流も図っている。(ソフボール、ポーリング等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に出向き、本人・家族との面談を行う。その際、希望(家族・本人)を確認し、どう生活していきたいのか等、情報提供して頂いている。やはり本人の不安が一番大きい。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査を通じて、家族としての意見や思いを聞き入れ対応している。又、家族もケアの協力者である旨も伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査から知り得た内容をフェイスシートに記載し、職員全員にて入居判定会議を実施し、可・不可を決定している。GHという場を見学して頂いたり、本人が暮らす場として相応しいのか、相互共有に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者それぞれの力量に応じて、出来る事を行って頂き、力になっている事を認めている。又、入居者同士の気付き、助け合いも日々の生活の中から見られている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族はケアの協力者であり、行事等にも積極的に参加して頂き、共に時間を共有出来るよう支援している。毎月の手紙、新聞の発行を通じて振り返りの大切さを感じて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が暮らしていた場所を大切に、誕生日等には、家族の理解と協力を得られ、古里訪問を行い、友人や近所の方々との交流を深めている。	誕生日等ふるさと訪問を実施し、自宅に行き知人を招いて一緒に食事してくるなどの取組みが行われている。また、友人が併設の通所事業所を利用しながら尋ねてくる事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、声掛け等行い、信頼関係を築くよう努めている。(職員が間に入り)食堂での席(場所)にも配慮している。笑顔のある関係性に努めている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	GHからの退去を余儀なくされても、今まで生活してきた相互の関係を理解し、その後の家族の支えになるよう、懇親会への参加等受け入れ態勢を作っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを通じて生活歴の把握を行い、日々の生活の中から模索し汲み取るようにしている。又、職員会議等で一人一人の意見等聞き入れ情報の共有に努めている。	利用開始前に自宅訪問し、生活歴や意向を確認している。本人から聞くことが困難な場合は家族から聞き取り、職員で検討して支援している。”花いじりをしたい”との希望のあった方の居室には花瓶に花が飾られていて、本人が手入れを行っていた。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、家族の情報に基づき対応している。(フェイスシート等) 夜間浴、病院、理美容の継続。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々のケース記録、バイタル測定、食事摂取量により、個々の状態の把握に努めている。表情・体動からサインでも情報理解を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	評価は毎月の職員会議の中で行っている。六ヶ月に一度、家族・管理者・職員によるケアプランの現状と今後について話し合い、家族の意向を取り入れケアプランの作成に努めている。	6ヶ月ごとに行われている介護計画の見直しは、家族の都合に合わせて開催する事によりほぼ全家族の参加が得られており、現状の報告、希望の確認等について話し合われている。その内容を基に、後日職員会議でケアプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケース記録、通院ノート等で情報の共有を行っている。日和変動等もあり、ウォーキングカンファレンスを常に行い、職員間でのケアの共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その場面場面の状況に応じて、職員間の連携をとり、サービスの多機能化に取り組んでいる。突発的な事が起きても、すぐその場に合わせ対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	理美容、かかりつけ医等これまでの生活を継続しながら、本人の状態に合わせ、安心した生活が送れるよう支援している。 ボランティアの協力も得られている。(毎月1回訪問)		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の際に家族から伺った病院を、職員間で把握するように心掛け、病院側に情報提供し、理解して頂き、適切な処置をして頂いている。	利用開始前からのかかりつけ医をできるだけ継続利用している。ほぼ全員の受診介助が職員によって行われ、医師と職員が直接話しをする事で関係作りが図られている。入院が必要な場合など、状況に応じて協力病院の受診を行うこともある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態把握はケアの中心であり、緊急時の対応については、看護師より指導して頂いている。施設併設の為、常に看護師の協力が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院、家族に入院に向け情報提供を行っている。又、家族へ入院治療計画書を提出して頂き、退院後のケアについて話し合い、それに向けて積極的に支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化のホームとして機能しているが、個々の状態を踏まえ、家族の希望を取り入れ、会議等で話し合い、情報共有に努めている。残された機能は活用させたいという信念をホームは持っており、対応している。家族の意向に従い、方針を決めている。	約半数の家族がホームでの看取りを希望しているが、医療行為が必要となる終末期対応は現状では困難と考え、併設特養ホームの入所申請を動いている。重度化への対応は特に力を入れて取り組みが行われていたが、今月から夜勤体制を2名から1名に変更するなど体制の変更があった。	夜勤体制を変更した事により、これまでの特徴であった重度利用者に対応できる範囲が変わってくるものと思われる。家族や職員と方針や支援の範囲等について話し合い、共通認識を持てるようにすることが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	母体の看護師、消防所の指導を受けている。(常に身体にみにつける為研修を行っている。)母体の看護師の緊急要請を受け入れてもらえるよう関係性が出来ている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練の実施。 災害マニュアル等作成し、職員間で共有している。	ホーム単独での消防訓練が年4回(夜間想定1回)、母体施設の総合訓練が年2回実施されている。総合訓練には地域の方も参加し、避難誘導訓練の協力を行っている。今年度中にスプリンクラーと自動火災通報装置を設置する予定。	10月から夜勤体制が変更になった事により、災害発生時の対応方法も再検討の必要がある。夜勤者が一人でも行動できる緊急連絡の方法や母体施設等との連携システムの見直しが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	禁句マニュアル等の作成。 プライバシー等のマニュアルの作成。(入居 に対しての尊厳のあり方) 職員間での日々の言葉掛けを見直し、対応 に努めている。	言葉遣いに注意するために「禁句マニュアル」を 作成しており、毎年見直しが行われている。職員 会議でも言葉遣いについて話し合われており、日 常的にも職員同士で気づいた事を伝え合うように している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	職員が会話を通じ、本人の思いを聞き入れ 対応している。個々の性格、訴えの違いもある 為、集団的・個人的にアプローチを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのように 過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者個々の生活リズムを把握している為、 活動性を常に求めている。外に出る制限をせ ず、場所・時間の把握に努めたり、ドライブ等 にて気分転換を図っている。活動制限(抑 制)せず、見守り中心に。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように 支援している	入居者個々の自己決定を優先に行い、その 後のアプローチも必要である為、助言等行い 状況を感じて頂いている。本人・家族が希望 する理美容へ職員が同行している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好み や力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備 や食事、片付けをしている	入居者個々の出来る能力を活用し、職員と 共に台所仕事を行っている。五感への刺激を 求め食べる楽しみを提供している。嗜好も理 解している為、代替提供も行っている。	立ち仕事で困難な人でも、モヤシのヒゲ取りや盛り 付け等をテーブルで行い、能力に合わせて食事 準備に参加できるようにしている。献立は利用者 の意向も取り入れ支援、月一回の”調理ボラン ティア”との食事準備・会食等も楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応 じた支援をしている	入居者個々に合わせた食事形態を提供して いる。水分量、摂取量を把握し、状況に応じ た対応も行っている。年4回カロリー計算にて 栄養士から指導して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケア をしている	入居者個々に合わせた口腔ケアの方法にて 実施している。(毎食後)歯科医師より講習会 を実施し、職員個々が口腔についての重要 性を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に基づき、声掛け等行いトイレ誘導、パット交換行っている。入居者個々に合わせたトイレ誘導、見守り等行っている。尿色・臭の確認も行っている。	水分摂取と排泄のチェックを行い、その状況を基に排泄誘導のタイミングを工夫し、トイレでの排泄ができるように取組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝起床時、オリゴ糖入りの牛乳の提供。排便に関する研修会を受講し、職員へ報告し情報共有している。医師の指示の基、下剤の服薬(状況に応じて)		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	夜間浴を実施している。職員2人対応等の個々にあった介助方法にて行っている。浴室にボードを設置し、入浴者の確認を行っている。入浴の際、様々な思いを聞く事がある。(話せる場の提供)	夜間入浴は10月から行わなくなった。1日に4~5人程度が入浴し、夜間入浴していた人には夕方入浴できるような対応がなされている。希望者は毎日でも入浴できる。入浴の時は会話をし、ゆったりと入ることができるように心掛けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週一回のリネン交換実施。室内空調管理。自由に居室へ行き、休息のとれる環境にある。本人が安心して休める場所(居間)へ誘導し職員と共に休む場面も度々見られる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	通院時頂いている薬説明書を個々が確認し、共有している。服薬、薬セットの際は職員同士確認し合っている。薬マニュアル作成し、常に確認出来るよう対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者個々が出来る事を見つけ、畑、洗濯物たたみ等して頂いている。本人の力量を日々確認しながら対応している。オーバーワークしないように(精神的ストレス考慮)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況に応じて、ドライブへ出掛けたり、外部行事への参加も行っている。古里訪問(家族の協力を得て、外出・外泊の場を設けている。)	天気の良い日には数人で市内のドライブに出かけ、好きな買い物をしたりしている。車いすの利用者も併設通所事業所の送迎車を借用して外出対応がなされている。一人ひとりの希望に応じた外出、自宅訪問等の支援にも取組まれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭はホームで預かり、本人の状態に合わせ、必要に応じて職員が対応している。基本的には、お小遣いとして預かっており、自由に使用できるようにはしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、家族へのTELを行えるように援助している。手紙や新聞を見て家族の方よりTELを頂く事もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前暮らしていた地を思い出して頂けるよう季節の花、壁紙等の飾り、安心した生活を送れるよう支援している。共用スペースが入居者にとって安心出来る場である事が必要である為、職員も見守り中心にて対応している。	家族から送られてくる四季ごとに合わせた題材で作られた壁飾りが、ホールに飾られている。懐かしい音楽が適度な音量で流れていて、一緒に口ずさんでいる方もいる。食事に集中できるようにするため、食事の時には食堂のテレビのスイッチが切られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間にはコタツを置き、廊下にはソファ・ベンチを設置し、思い思いの場所・空間を利用できるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬいぐるみ、家族の写真等を掲示し、工夫している。本人としての私物を持ち込み生活の中に取り入れている。	帽子またはお花の好きな人の部屋には、それぞれの趣味に合ったいくつかの帽子や切花が飾られていた。家族の写った写真や敬老会でのお孫さんからの手紙などを壁に飾るなどの取組みがなされていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内には手摺りが設置してあり、全面バリアフリーにて自由に移動出来るよう配慮している。		